

## 中国四国広域プロ養成プログラム —チーム医療を担うがん専門医療人の育成— [www.chushiganpro.jp](http://www.chushiganpro.jp)

松岡 順治<sup>a\*</sup>, 猶本 良夫<sup>a</sup>, 田端 雅弘<sup>b</sup>, 白川 靖博<sup>a</sup>  
堀田 勝幸<sup>c</sup>, 谷本 光音<sup>c</sup>, 田中 紀章<sup>a</sup>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 <sup>a</sup>消化器・腫瘍外科学, <sup>c</sup>血液・腫瘍・呼吸器内科学,  
<sup>b</sup>岡山大学医学部・歯学部附属病院 腫瘍センター

キーワード：がんプロ, チーム医療, 大学院

### Mid-West Japan Cancer Professional Education Consortium

Junji Matsuoka<sup>a\*</sup>, Yoshio Naomoto<sup>a</sup>, Masahiro Tabata<sup>b</sup>, Yasuhiro Shirakawa<sup>a</sup>,  
Katsuyuki Hotta<sup>c</sup>, Mitsune Tanimoto<sup>c</sup>, Noriaki Tanaka<sup>a</sup>

<sup>a</sup>Departments of Gastroenterological Surgery, Transplant, and Surgical Oncology, <sup>c</sup>Hematology, Oncology and Respiratory Medicine,  
Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, <sup>b</sup>Cancer Center, Okayama University Hospital

#### はじめに

わが国では2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代となりました。10年後には3人に2人ががんになり2人に1人ががんで死亡するようになるといわれています。しかしながら、がんの医療現場においては従来からさまざまな問題が指摘されてきました。これらの問題に対し、国は平成19年4月に**がん対策基本法**を施行しました。この法律はがん対策に関して基本理念を定め、国、地方公共団体、医療保険者、国民及び医師等の責務を明らかにし、がん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。この法律によって、がん患者はその居住する地域に関わらず等しく科学的知見に基づく適切ながん医療がうけられるようにすること（**がん医療の均てん化**）、本人の意向を十分に尊重して治療方針が選択されるようにすること、特に生活の質を重視した医療が初期から受けられるようにすること（**緩和医療の充実**）などが謳われています。がんの医療のありかたが法律で定められるという画期的な状況がうまれたのであります。

このがん対策基本法の理念に基づき理想的ながん医療を実現するためには多くの専門家が必要となりま

す。しかしながら、現状では、がんを横断的・集学的に診療できる専門家は全国的に少なく、その養成が望まれています。特に**がん化学療法**、**放射線療法**、**緩和医療の専門家**の充足が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等（コメディカル）の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です（**チーム医療の実現**）。従来の教育においてはこのようなチームとしての医療のあり方を体系的に教育する場は存在しませんでした。

これらをかながみ、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うことを目的とした「**がんプロフェッショナル養成プラン**」が策定されました。文部科学省の大学改革推進事業の一環として策定され、大学院における教育が基本となっていますが、同時に複数の大学病院をはじめとする地域の拠点病院と有機的かつ円滑な連携を併せた臨床教育が必須となっています。

平成19年度には岡山大学が主幹となり、愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知女子大学、徳島大学、山口大学と連携し申請した「中国・四国広域がんプロ養成プログラム—チーム医療を担うがん専門医療人の育成—」が採択されました。全国で18件、総額14億円の事業が採択され、当プログラムでは平成19年度は総予算1億5千万円のうち1億円、平成20年度には総予算1億6千万円のうち1億3千万円の

平成21年1月受理

\*〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1

電話：086-235-7257 FAX：086-221-8775

E-mail：jmatsu@md.okayama-u.ac.jp

補助金が交付されプログラムを実施しています。

## 中国・四国広域がんプロ養成プログラム —チーム医療を担うがん専門医療人の育成—

### 1. 目的

中国・四国の8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の26のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域でがん治療の専門職を養成します。本プログラムによって養成された専門職が中国四国地方を中心とし活動することによって、この地域のがん患者は居住する地域によらず、標準的ながん治療が受けられるようになることが期待されます。

### 2. 組織

図1に示すように中国四国地方の8大学大学院を中心としてこれに連携する多くの地域連携拠点病院が協力してプログラムを運営します。図2に示すように、コンソーシアムの事務局は岡山大学におき、各種の委員会を形成し運営にあたります。運営に当たっては各大学を代表するコーディネーターが運営協議会を開きその方向を決定します。各専門職の養成にあたっては

担当大学を決定し責任を持ってカリキュラムの調整を行います。プログラムの実施に当たってはその評価を行うことが重要であり、そのための評価委員会を設けて改善を行うこととなっています。また、がんの治療は臨床の実践を抜きには語れないことから、地域連携拠点病院との連携を重視しています。がん治療における治験は重要な位置づけであること、教育効果が期待できることから広域での治験の実施を目指した委員会を設置しています。また情報を広く学生、教官、開業医などに公開するための広報活動にも力を入れています。

### 3. 養成コース

図3に示すごとく各大学が専門職養成のための大学院のコースを設定しています。これにより、毎年図4に示す数の専門職が養成されることになり、これらの専門職は卒業後、豊富な知識を武器に中国四国地方を中心としたがん治療に携わることとなります。今回の大学院のプログラムでは化学療法専門医、放射線療法専門医、緩和医療専門医、腫瘍外科医の専門医師養成コースと、がん専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士、がん専門栄養士の養成コースが完備されています。これに後述する生涯教育を意図したインテンシブ

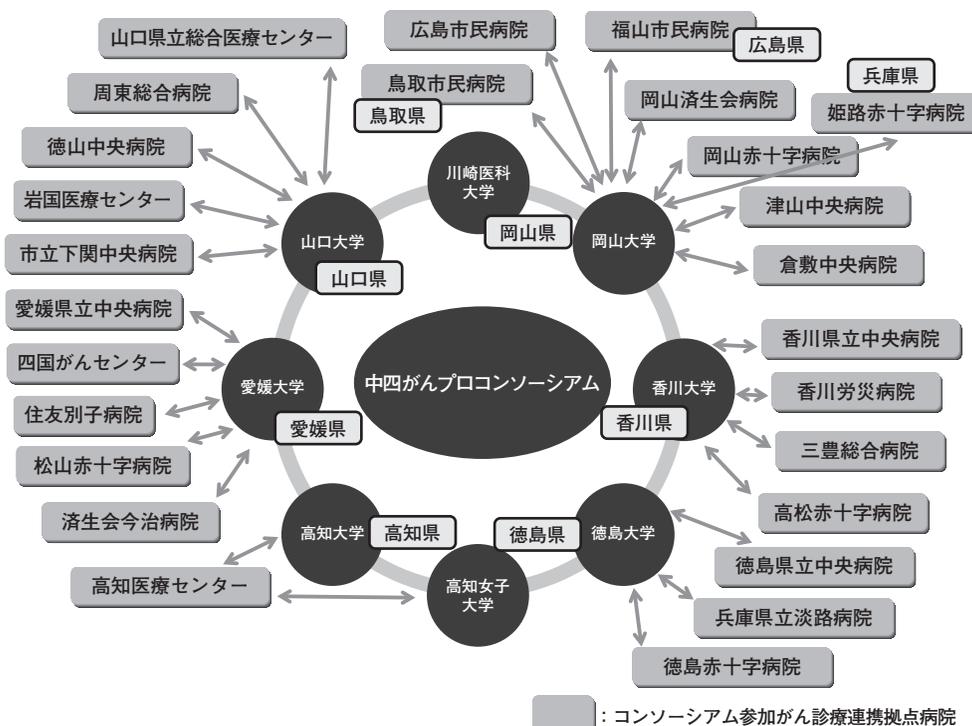


図1 中国・四国全域に広がる拠点病院（組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織）



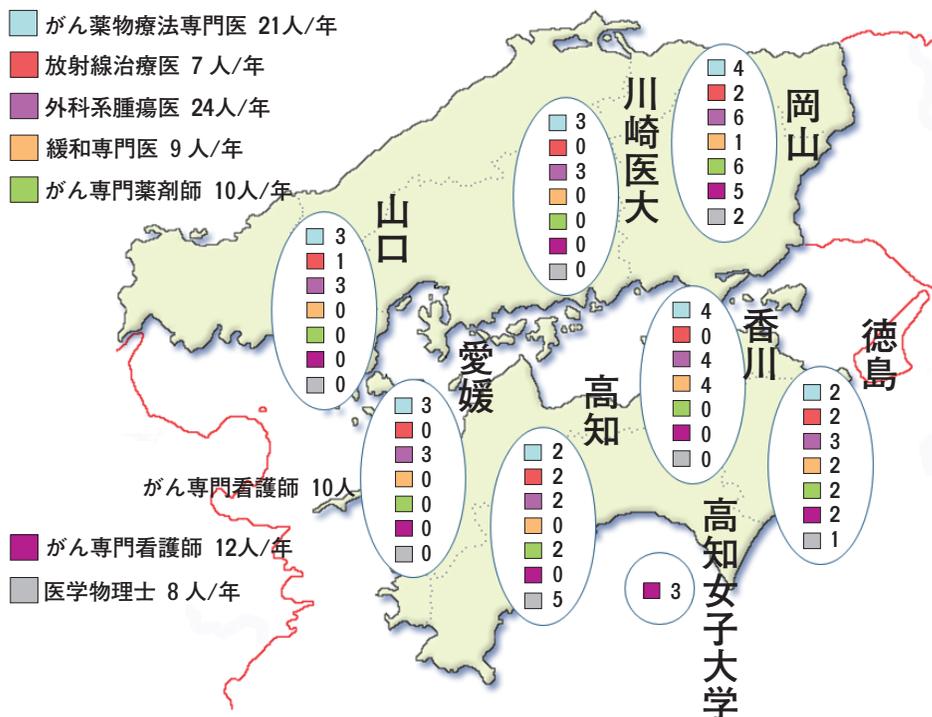


図4 コンソーシアムで養成するがん専門医療人（大学院）

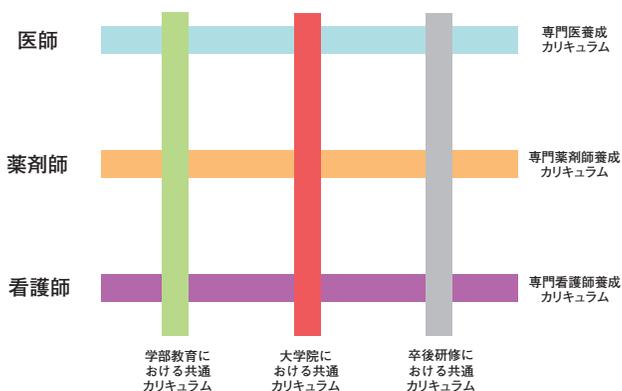


図5 職種間におけるカリキュラム共有のイメージ

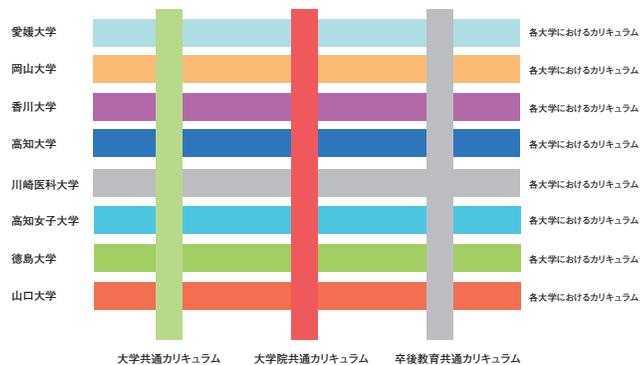


図6 大学院におけるカリキュラム共有イメージ

### 3) がん医療に携わる専門医師等の研修（インテンシブ）コース

既ががん以外の学会認定資格等を取得している医師等を対象に、生涯教育の一環として、がん薬物療法、放射線治療、緩和医療等の最新の知識と技術の習得を促します。また、すでががん臨床の経験ある人を対象に、指導的人材の養成も視野に入れて、高度先進的がん医療の情報ならびに実習の機会を提供してがん専門職資格の維持・取得を促し、リアルタイムにがん医療水準の向上を図ります。このことにより、標準的がん

治療が広域で実施されるようになると期待されます。現在すでに多くの研修セミナーが開催されており、詳細をHP ([www.chushiganpro.jp](http://www.chushiganpro.jp)) で閲覧することが可能となっています。

### FD 研修

中国四国がんプロにおいては指導者の養成にも力をおき、先進医療施設の指導方法の導入を行っています。これは国内のがんプロのプログラムの中でも本プログラムに特徴的であります。これをさらに進め、将来的

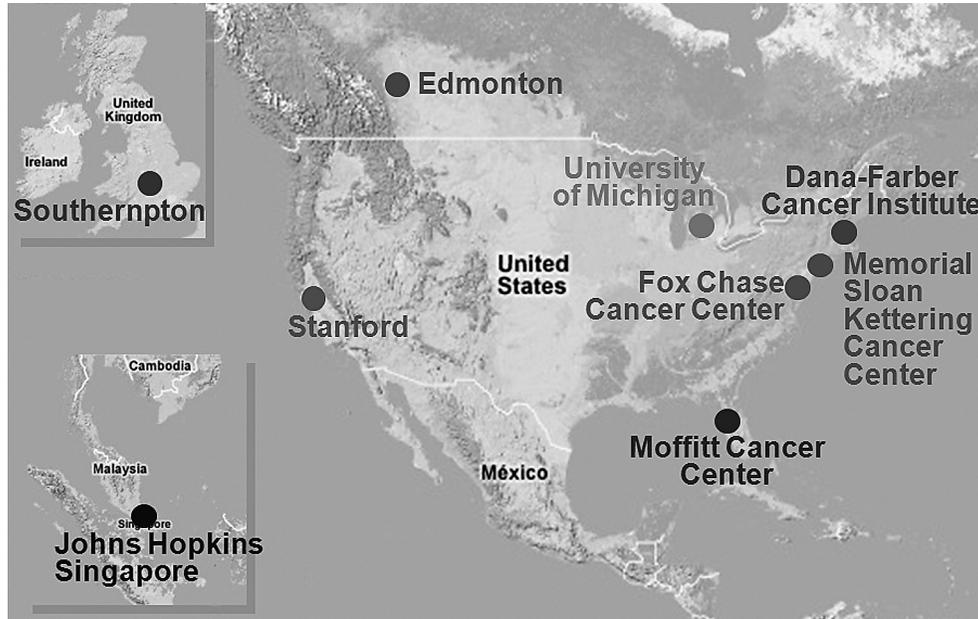


図7 指導者養成の協力施設

にはコンソーシアム内での指導者育成を積極的に図り、広域に指導できる体制を構築する予定であります。また、FD研修で培ったネットワークは今後も発展的に専門職研修へ生かされる予定であります。

指導者研修施設としては国内ではがんセンター中央、癌研有明病院をはじめとして、海外ではダナ・ファーマーがん研究所、ジョンズホプキンスシンガポール、モフィットがんセンター、スタンフォード大学、アルバータ大学など各専門分野における先進施設との提携を行っています(図7)。これらの施設での研修はいずれも眼を見張るものがあり、それを各大学でフィードバックしています。同じく [www.chushiganpro.jp](http://www.chushiganpro.jp) で閲覧可能です。

### 大学院入学がんプロコースの意義について

がんプロの大学院では多くの講義を受講することがもとめられ、ある意味では時間的に負担が増えることとなります。しかしながら、大学院がんプロコースに入学することは最新かつ最善のがん治療の講義を受講することが自動的に可能となるということです。また、がんプロのコースを終了することにより、専門医の取得が容易になる利点もあります(臨床腫瘍専門医、緩和専門医等)。今後ともこのメリットは拡大されていくことが期待されています。このような多彩な内容のが

ん治療の講義を体系的に受講する機会是他ではみられません。多くの優秀な講義陣と身近に接することにより得られるものには計り知れないものがあると考えられます。また、現在の医療において重視されているチーム医療のマインドを学習する機会是他になく、これを習得することは、将来専門医療職として医療に従事するうえできわめて有益であると考えます。がんプロは医療の心と技術を同時にみながくことができる場所であると考えます。

### おわりに

中国四国がんプロフェッショナル養成プログラム([www.chushiganpro.jp](http://www.chushiganpro.jp))について概説しました。国民の希求する、よりよいがん治療の実現のために、中国四国地方の8大学が連携して専門職を養成するプログラムです。これに参加する指導者、大学院生あるいはインテンシブコースに参加する臨床医にとって、がん治療を極めるために意義のあるプログラムであると考えられます。岡山大学を中心としてこのような広域のプログラムを実現することにより中国四国地方の大学、地域連携拠点病院の密接な連携が構築されることはこの地域の医療・教育・行政にとって意義の深いものであると考えられます。今後とも大きな成功を目指し努力を続けたいと考えています。